

| | | | | | | |
|--------|-----|----|--------------------------------|------|-----|------|
| 総合<総合> | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 社会福祉論 | | | 11369 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | | |
| 西橋 隆三 | 選択 | 2 | 元市職員（福祉事務所長・障がい児療育センター所長）社会福祉士 | | | |

授業の到達目標

高齢化・少子化が同時進行している現代の社会状況の中で、保育、介護、医療等の問題には誰もが直面することとなる。これらの福祉問題の内容を理解し深く考えていくことは、福祉の専門分野に携わっていくためには不可欠なことである。授業では社会福祉の理念、制度や援助などを広い視野から学び主体的に考える力を身に付ける。このクラスでは主にKAISEIパーソナリティのI（知性）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

授業では、社会福祉に関する基本的な項目を学習するとともに、最新のデータや資料によりわが国の社会福祉の動向や課題等を理解できるようにする。指定する教科書の構成に従い授業を進めるが、時事的な問題やキーワードとなる内容などは討議しながら内容を深めて確認する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 社会福祉と私たちの暮らし
- 3 社会福祉の理念と歴史の変遷
- 4 現代社会における生活問題
- 5 社会福祉制度と実施体系
- 6 社会福祉の分野 子ども家庭福祉 1
- 7 社会福祉の分野 子ども家庭福祉 2
- 8 社会福祉の分野 障がい児者福祉
- 9 社会福祉の分野 高齢者福祉
- 10 社会福祉の分野 公的扶助
- 11 社会福祉の分野 地域福祉・医療福祉
- 12 社会福祉における相談援助
- 13 社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ
- 14 社会福祉の動向と課題
- 15 まとめと試験

授業の方法

講義を主体としながら視聴覚教材やディスカッションを取り入れていく。

準備学修

Webで確認すること。

課題・評価方法、その他

平常点40%、定期試験60%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は不合格とする。

テキスト

小林育子・瀬早百合共著「社会福祉と私たちの生活―保育を学ぶ人のために」萌文書林 2016年
また、授業の中で必要な資料を配布する。

参考図書

必要な参考図書については授業の中で提示する。

教員連絡先

nishihashi@kaisei.ac.jp

| | | | | | | |
|--------|-----|----|--|------|-----|------|
| 総合<総合> | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 人権教育論 | | | 11373 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | | |
| 堀 正人 | 選択 | 2 | 神戸市教育委員会人権同和教育室指導主事 阪神淡路大震災避難所支援 近畿地区同和行政研究発表 | | | |

授業の到達目標

人権教育の基本的な概念を学習し、人権感覚を高め人権学習の実践力を養う。そして学校での人権学習の具体的な指導法を考察する。さらに人権学習の指導案を作成し実践的な模擬授業を経験する。このクラスではKAISEIパーソナリティ-I（知性）を養い、プレゼンや模擬授業、ロールプレイを体験する過程でK（思いやり）の諸能力を生かします。

授業の概要

毎回配布するレジュメ・資料を中心に授業を進める。人権感覚を磨く方法や、人権教育の在り方について考察し、実際の取り組み方を学ぶ。

授業計画

- 1 人権とは(人権感覚、考え方)
- 2 偏見と差別
- 3 人権・同和教育とは
- 4 人権尊重の教育
- 5 子どもの人権 I (虐待、体罰、子どもの安全)
- 6 子どもの人権 II (いじめ、不登校、権利条約)
- 7 学校における人権学習 I (学習権、個性)
- 8 学校における人権学習 II (複数指導、生活科)
- 9 人権教育指導実践 I (項目別)
- 10 人権教育指導実践 II (資料研究)
- 11 人権教育指導実践 III (人権ゲーム、ロールプレイ)
- 12 阪神淡路大震災と人権
- 13 人権学習のコラム
- 14 諸外国の人権教育事情
- 15 人権教育の課題、まとめ

授業の方法

講義を中心に発表やロールプレイも取り入れ、模擬授業を実践してもらいます。

準備学修

世界中で報道される人権問題に関心を持っておくこと。毎回配布さ

れるレジュメやプリントをファイルし、講義メモを添えて整理保存すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえず欠席する時は事前事後に届け出ること。

テキスト

参考図書

授業の中で適宜紹介します。

留意事項

ロールプレイやゲーム等で人権感覚を磨く訓練をします。毎回の授業の記録ファイルを最後に提出してもらいます。オンライン参加学生は、必ずビデオ・オーディオをオンにして授業を受けること

教員連絡先

mhor@kaisei.ac.jp

| | | | | | | |
|------------------|-----|----|--------------------------------|------|-----|------|
| 関連科目 < こども関連科目 > | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| ボランティア論 | | | 17505 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | | |
| 西橋 隆三 | 選択 | 2 | 元市職員（福祉事務所長・障がい児療育センター所長）社会福祉士 | | | |

授業の到達目標

わが国のボランティア活動は、幅広い分野において多様な形態で展開されている。授業では、ボランティアの理念・原則・各分野の基本を学習しながら「興味」「関心のあるテーマ」などから主体的に体験活動に参加することを目標とする。また体験活動を振り返ることを通じて、福祉の対象者への関心を高め、将来の社会参加や社会貢献に繋げることを目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）A（自律）S（奉仕）を養う。

授業の概要

授業では、講義、討議、実践などを織り込みながら、参加のモチベーションを主体的に高めることを促す。「自分にとってのボランティアは何か」「どんな活動ができるか」「ボランティアのあり方は」「ボランティアの意義と課題」など、授業を通じて考えていく。まず基本理念や歴史、組織や活動の実際について事前学習を行い体験活動に参加する。体験活動後の討議、交流、プレゼンテーションなど事後学習を通じて、それぞれにとってのボランティアの意義や参加意識を深めていく。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 ボランティアの基本理念
- 3 ボランティアの歴史
- 4 人と未来防災センター及びJICA関西での実習(土曜日)
- 5 災害とボランティア活動(阪神淡路大震災と東日本大震災など)
- 6 社会福祉施設等でのボランティア活動
- 7 地域でのボランティア活動
- 8 国際社会とボランティア活動
- 9 環境問題とボランティア活動
- 10 ボランティア活動の体験(1)
- 11 ボランティア活動の体験(2)
- 12 体験活動の記録化と振り返り
- 13 グループ討議(KJ法による)
- 14 プレゼンテーション(体験活動の成果)
- 15 まとめとしての講義の後、ボランティア体験活動のレポート提出を求める

授業の方法

講義を主体としながらディスカッションや視聴覚教材を取り入れていく。さらにボランティア活動を体験することが重要であり事前学習や事後学習を通じて準備していく。

準備学修

Webで確認すること。

課題・評価方法、その他

2日間のボランティア活動記録とレポートによる。また授業への積極的な参加を求めます。

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

特に指定はしない。必要な資料を配布する。

参考図書

必要な参考図書については授業の中で提示する。

留意事項

2日間のボランティア体験活動への参加が必要である。体験の実践にあたり個別相談や個別指導を第9回～第11回の講義内で行う。

教員連絡先

nishihashi@kaisei.ac.jp

| | | | | | | |
|------------------|-----|----|------------------|------|-----|------|
| 関連科目 < こども関連科目 > | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 図画工作 | ①/② | | 17509 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | | |
| 森 晴美 | 選択 | 2 | 公立幼稚園教員、私立保育所保育士 | | | |

授業の到達目標

改訂の趣旨を踏まえ、図画工作科の目標と内容を演習・実習を通して理解する。また、造形表現の発達の過程や特徴について知る。そして、自己表現の喜びや達成感を得られ、豊かな情操をはぐむ指導の在り方を理解することを旨とする。表現意欲や鑑賞活動を重視することで、個々の表現の多面的理解に努める。実習を通して児童の思いを推測し、適切な評価ができる力を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

子どもの発達に即した表現方法や、材料・用具の基本的な扱い方について、講義と実習を行う。また、鑑賞の機会を重視し、各自の表現のよさや工夫等を見出すため評価シートやポートフォリオを作成する。情報機器を活用して発表の機会をもつ。そして、感性を高め、実践力を養うようにする。作品の一部は地域や学内の子育て支援活動にいかす。

授業計画

- 1 図画工作科の改訂のポイントと資質能力
- 2 図画工作科の内容と幼稚園からの接続、中学校への接続
- 3 造形的な視点 色と形の出会い
- 4 造形遊びをする活動 並べたり積んだりして
- 5 絵に表す活動 パスを使って
- 6 絵に表す活動 筆やペンを使って
- 7 立体に表す活動 土粘土を使って
- 8 立体に表す活動 教材用粘土を使って
- 9 工作に表す活動 伝統文化と関連して
- 10 工作に表す活動 様々な用具を扱いながら
- 11 身近な材料を使った表現 リサイクルの視点で
- 12 生活に役立つものを作る 防災の視点で
- 13 生活を楽しく豊かにする鑑賞の活動
- 14 情報機器を活用した活動
- 15 外部資源の活用と連携 まとめを行ってから試験をする

授業の方法

講義と実習・演習を主とする。制作した作品をもとに鑑賞活動を深め、学び合いの機会をもつ。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①実習課題の構想シート、制作物、ポートフォリオの提出を求める。講義においてフィードバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』

参考図書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』

留意事項

実習・演習は、学習課題により個人もしくは小グループで行う。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。